



Active stage at HK

～東海南中学校だより～ 令和5年 卒業記念号



順風満帆～向かい風も追い風に 卒業式

春の暖かな陽光に包まれ、3月7日、第53回卒業証書授与式が挙行され、保護者の皆様と在校生、職員で卒業生の門出を祝いました。

一人一人に卒業証書を授与した後、私の式辞では、3年生学級目標の「順風満帆～向かい風も追い風に」をなぞり、この3年間、コロナ禍の影響を最も受けた卒業生ですが、どんな壁に当たっても、笑顔でプラスに考えて乗り越えていったことをあげ、「ピンチは自分を成長させるための最大のチャンス」と信じることができれば、大きな壁に突き当たったときに「こ

れはチャンスかも」と思え、頑張る力がわいてくること。そして、時に「まあいいか」は自分の可能性を摘み取ってしまう。「これだけは譲れない」ということに出会い、「自分はこんなもんじゃない」と自身の可能性を貪欲に追い求めてほしいとエールを送りました。

送辞では、在校生代表の岩井柚月さんが「一人ひとり異なる魅力があった先輩方、伝統を受け継ぎ、先輩方に負けないよう日々成長していきます」と決意を述べ、答辞では卒業生代表の田伏隆伸君が、3年間の思い出を振り返り、「私たちは経験しました。東海南中学校にいる限り、決して独りではないことを。だからこそ、たくさんの人に応援していただけた東海南生であってください」と在校生にメッセージを送りました。最後には卒業生がひな壇に上がり合唱し（曲・3月9日）、3年ぶりに体育館に歌声が響きました。

式後は在校生と保護者・職員でつくった花道をくぐると、後輩から花や寄せ書きを受け取り、写真を撮りあうなど、笑顔で別れを惜しまました。卒業式は門出を祝う式であるとともに、在校生が伝統を受け継ぐ式でもあります。これまで卒業生が見せてくれた姿は、言葉や形ではなく、自然と在校生に染みこんでいると感じました。伝統はこれからも確実に受け継がれていきます。



15の決意 2年生立志式

卒業式から一週間後の16日。立志式が挙行されました。この日の主役は2年生。立志式



は昔の元服にちなんで15歳の若者が、将来への決意や目標を漢字一字に託して決意表明する行事です。私からは、バスケットの審判ライセンスを持つ中2の生徒のエピソードをあげ、稚心(幼稚な心)を去るために、コミュニケーション能力と行動力の大切さについて話しました。生徒の決意表明では、稲置さん(写真左上)は「色



～人に流されず自分の色を大切にしたい」、田端君(写真右下)は「修～自分の名前(修也)に背かないように努力し、多くのことを学びたい」、高田君は「時～時間を無駄にせず、後悔のないように生きていきたい」、岡君は「超～何事も前の自分を超えていきます」、掛さんは「彩～彩りのある豊かな人生を送りたい」、口井さんは「凜～周りから頼りにされる凛々しい存在になる」、川添君は「希～希望にあふれた人生を送っていききたい」など、それぞれの想いを壇上で実に堂々と発表しました。先週3年生からバトンを受け取った2年生。随分凛々しくなりました。大人への扉は目の前に。日々有言実行を忘れず！

しんどさの果てに 校内マラソン大会



14日、沖野マウンド周辺コースで、第3回校内マラソン大会が開催されました。男子は3.5km、女子は2.5kmで、後半はひたすら登り坂という過酷なコースに挑みました。結果、男子は西岡健人君が昨年の自身の校内記録を30秒更新しての連覇。2位に岡

昂輝君、3位に渡辺篤志君。女子は口井菜暖さんがこれまでの校内記録をなんと1分以上更新しての優勝。2位に山本唯菜さん、3位に堂山玲香さんが入賞し、それぞれ金銀銅のメダルを獲得しました。閉会式では男女優勝の二人に井川先生作の月桂冠を授与し勝利を称



えました。(写真右) マラソンは参加した全員が「しんどさ」を、ゴールではそのしんどさから解放される「爽快感」を味わえます。ゴール前で最後の力をふりしぼってダッシュする生徒(写真左)や、笑顔でゴールする姿が清々しかったです。誰一人手を抜く生徒はなく全員が全てを出し切り、全体のレベルが大きく上がっているように感じました。今年も保護者の方々と20人ほどの3年生が、ボランティアでコースの安全管理をしてくれました。ありがとうございました。

